

大きくなって戻ってきてね 小学生96人がサケ稚魚放流

4月19日、織笠川で「サケ稚魚放流会」が開かれ、町内の小学2年生96人が約1万尾のサケ稚魚を放流しました。同放流会は、子どもたちに地元漁業への理解を深めてもらおうと町漁業就業育成協議会が毎年開いているもので、放流された稚魚の一部は児童たちがこの日のために校内で大切に育てたものです。放流時には、子どもたちから「大きくなって戻ってきてね」と声が掛けられ、放流用のバケツから稚魚が放たれると元気に泳ぎだす姿を笑顔で見守っていました。



青少年の家「海釣り道場」に38人 親子らが大物のアタリに大興奮

5月3日から4日にかけて陸中海岸青少年の家（大久保士郎所長）が主催する「海釣り道場」が船越漁港周辺で開催されました。船釣りや堤防釣りが体験できるこの企画には、町内外から38人が集まり、親子で楽しむ姿が見られました。初日夕方からの堤防釣りでは、指導員が餌の付け方や魚をおびき寄せるコツを伝授し仕掛けを投入。その後、アイナメやドンコなどを釣り上げては、歓声を上げていました。参加した港悠剛君（9）は、「釣れた時はドキドキしました」と大物のアタリに興奮気味でした。

浦和レッズ杯少年サッカー大会 元プロ選手が見守る中、全力プレー

ゴールデン・ウィークの5月4日、5日、山田サッカー協会（関清貴会長）が主催する「浦和レッズ杯ハートフル少年サッカー大会」が、総合運動公園サッカー場で開かれました。平成30年に被災地の子どもたちの心のケアを目的に始まった同大会。3回目の開催となる本大会には近隣市町村などから6チームが参加し、子どもたちは浦和レッズの元プロ選手の内館秀樹さんらが見守る中、全力でプレーし熱戦を繰り広げました。試合の結果、FC釜石が優勝し本町チームのFC山田ヴェルエー二は準優勝でした。



織笠地区コミュニティで記念誌発行 半世紀に渡る歩みを1冊に

織笠地区コミュニティ推進協議会（佐藤澤利勝会長）では、このほど半世紀に渡る活動の記録や出来事などをつづった記念誌を発行しました。創立50周年を記念し地区内の各家庭への配布を目的に作成したもので、50ページを超える紙面は写真や関係者らの寄稿などで構成され、創立した昭和47年からの歩みと歴史を振り返ることができます。佐藤澤会長は「これからも皆さんに住んで良かったと思っただけのように取り組みを続けていきたいです」と完成した1冊を手にも想いを新たにしていました。



田町のおたしい

今月の題字 尾形 佑菜さん（豊間根小6年）



「船越春のむらまつり」に2,100人 ポニーと触れ合い楽しいな

晴天に恵まれ行楽日和となった5月4日、船越公園と鯨と海の科学館では「船越春のむらまつり」が開かれ、町内外から訪れた親子連れら約2,100人でにぎわいました。場内では、人気キャラクターのステージショーのほか、各種体験コーナーなどが設けられ、大勢の人たちがさまざまな催しを楽しんでいました。中でも人気を集めていたのは「ポニー乗馬体験」。このコーナーでは、ウサギやヤギとも触れ合うことができるとあって、子どもたちは「かわいい」と何度も歓声を上げながら、ポニーの背中に乗ったり、動物たちの体をなでたりしていました。

指導員らが街頭啓発活動

「安全運転をお願いします」——。町交通安全対策運動協議会（会長・佐藤信逸町長）が主催する街頭啓発活動が5月11日、中央公園前の国道45号沿道などで行われました。春の全国交通安全運動の一環で行われたもので、町交通指導隊や町交通安全母の会など関係機関から約50人が沿道に立ち、ドライバーへ啓発用のチラシやティッシュなどを配りながら事故防止を呼び掛けました。あいさつに立った宮古警察署の佐藤 晋 署長は「一人一人が安全運転を意識し、交通事故の無い安全安心なまちづくりを目指してほしい」と運動への協力を求めています。



沿道、各地で春の交通安全



園児らがルールの大切さ学ぶ

右を見て、左を見て、もう一度右を見て——。4月27日、山田第二保育所（佐々木純子所長、園児34人）では交通安全教室が開かれ、園児16人が交通指導員らを講師に横断歩道の渡り方や信号機の見方などを学びました。交差点に見立てた園庭では、教材用の信号機が赤から青になると、手を挙げて左右を確認しながら保護者と一緒にきびきびと歩く園児たちの姿が見られ、参加した佐々木咲来さん（5）は、「道路を渡るときは左右を見るようにします」とルールを守る大切さを実感したようでした。同教室は、4月から6月にかけて町内の保育所や小中学校などで行われています。